

Marine Snow

@asamushi aquarium



2014

浅虫水族館開館30周年

2013年7月、青森県営浅虫水族館はお陰さまをもちまして開館30周年を迎えることができました。1983年7月23日に常陸宮殿下をお迎えして華々しくオープンしたのが、ついこの間の事のような気がするほどあつという間の30年間でした。

開館30周年を迎えるにあたって、私たちは「いのちのめぐもりを感じてありがとうの30年」を基本テーマに、開館まもなくから浅虫水族館の人気者として活躍し今もお元気に暮らしている動物たちにスポットを当てることにしました。まず、開館前から飼育をはじめ、ショーで活躍したカリフォルニアアシカの「エイブ」。32歳で現在の日本最高齢のアシカとして健在です。ただ、白内障を患っていることから障害物の多い展示プールではなくバックヤードで飼育していますので、観覧通路にTVモニターを設置し、日々の姿をご覧いただけるようにしました。

続いて、バンドウイルカの「ジム」。推定ではありますがこちらも32歳で、2009年に世代交代からショーを引退するまで16年間花形として活躍してきました。引退後は、別棟のいるか館で暮らしていましたが、7月20日から10日間限定でショーに復帰しました。その他、アオウミガメ、フンボルトペンギン、レッドテールキャットフィッシュなど、長年にわたり来館者の皆さんを楽しませてくれた生き物たちをあらためて紹介しました。



マスコットキャラクターの「こころ」ちゃんが、知事から感謝状をいただきました。

7月20日には、三村青森県知事をお迎えして、イルカショーホールで開館30周年記念セレモニーを開催。知事には「長い生き物たち」への感謝状の贈呈、そしてイルカのジムにジャンプの合図を出していただきました。

海獣館では、新たにゼニガタアザラシの飼育を開始いたしました。これは、絶滅危惧種として保護されているゼニガタアザラシによる漁業被害対策のために、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターとの共同研究を目的として導入したものです。「野生動物との共存」がテーマ、開館30周年を迎えた浅虫水族館にはふさわしい新規事業と思います。

これからも皆様に愛される水族館を目指すべく、新たな一歩を踏み出すことができました。

※カリフォルニアアシカのエイブは、2014年1月6日に死亡しました。

魚のウォータースライダー？

2009年より「躍動する魚群の展示」を目指し、海洋大水槽でマサバとマアジの展示を始めました。様々に形を変えながら泳ぐ魚群の動きは、それまでの水槽のイメージを大きく変えることに成功したと思います。

それから4年が経過した2013年にマサバとマアジを追加展示しました。水族館総合の定置網で採集した魚を仮設の水槽でしばらく飼育し、新たな環境に慣れた頃に海洋大水槽へ移しました。その時に活躍したのがビニール製の大きな「雨どい」のような道具です。これを海洋大水槽とその上部にある仮設の水槽との間に置き、そこに魚を海水ごと流して移したのです。その様子は、魚の「流しそうめん」。それとも「ウォータースライダー」と言ったら分かりやすいでしょうか。そうして水槽に飛び込んだ魚たちは、群れをなして泳ぎ始め、時折、大きなボールのような形にもなりました。

今回搬入した魚は1,700匹を超え、「躍動する魚群の展示」を維持していく事ができました。



ボールのような群れをつくる魚たち



魚を雨どいで流します



大海洋水槽へ流れ落ちる魚

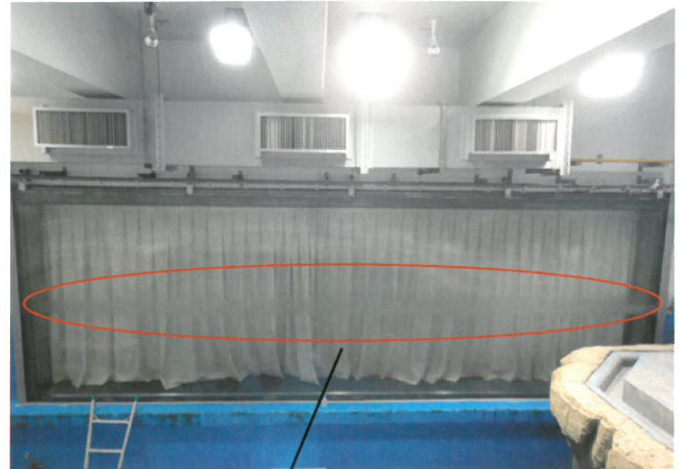


プール改修工事(ラッコからゼニガタアザラシへ)

ラッコを飼育していたプールを、ゼニガタアザラシ用のプールへ改修する工事がありました。期間は、平成25年5月中旬から6月末。工事内容は、ガラスの撤去、アクリルガラスの研磨、陸場の増床、壁面塗装、スロープの設置、扉改修工事などです。

この中で最も気がかりだったのは、ガラスの工事でした。長年、ラッコが餌のウチムラサキ貝やホッキ貝の貝殻を使ってガラスに付けた擦傷が無数にあったからです。今回の工事でそれを解決することができました。

このプールの観覧通路側は、アクリルとガラスの二重構造になっており、その隙間にはゲルが注入されています。改修工事では、傷付いたガラス部分とゲルを撤去し、アクリル1枚だけにします。まず、ガラス切りでガラスを切り、表面をバーナーで熱します。そして、霧吹きで散水すると温度変化によってヒビ割れができます。これをバールで剥がし、ゲル部に空気を入れてまた剥がす。



ラッコが貝でガラスを叩いたり、貝殻を使って擦ってできた傷が白く帯状に付いています。



慎重に手作業でガラスを剥がします

それを何度も繰り返す、気の遠くなるような作業です。ガラスを完全に撤去するまでに3日間かかりました。その後、残ったゲルをアクリル面がキズ付かないよう慎重に剥離する作業が続きました。最後は、アクリル面の研磨をして終了。作業の方も相当に神経を使い、大変だったようです。お疲れ様でした。

その後は、他の工事がほぼ同時に始まり、大きなトラブルもなく無事終了しました。

ゼニガタアザラシ飼育開始

2013年6月30日、北海道の襟裳岬から4頭のゼニガタアザラシを搬入しました。ゼニガタアザラシは5つの亜種に分類されており、北海道に生息するのは、学名 *Phoca vitulina stejnegeri* です。この亜種は、北はカムチャツカ半島東部から南は北海道まで分布し、北海道では東部太平洋側にのみ生息します。



ゼニガタアザラシ

周年沿岸域に生息し、底魚類・頭足類を採餌する。
他のアザラシに比べて上陸時間が長い。
出産・育子期は5～6月、換毛期は7～8月。



保護・漁業被害

1940年代には、5,000頭近くが生息していたと考えられていますが、戦後毛皮の需要が高まり多くのゼニガタアザラシが狩猟され、また、沿岸の港や道路の整備などの人間活動によって生息環境が悪化したために、1980年代には、400頭前後まで激減するという危機的な状況になりました。そのため、1998年に環境省のレッドリストでは絶滅危惧種ⅠB類に指定され、野生動物保護の気運が高まった2002年には鳥獣保護法の対象にもなりました。近年は、個体数の増加が確認されており、2012年には、絶滅危惧種Ⅱ類のランク付けに変更されるまでの回復が見られています。

しかし一方で、新たな問題が起きています。ゼニガタアザラシがサケの定置網に入り込み、サケを傷付けてしまうのです。いわゆる「とっかり食い」ですが、なぜか襟裳の被害は頭部だけを食いちぎられていることが多いのだそうです。傷付いた魚に商品価値はありません。漁業被害をなくすために何らかの対策を講じる必要があります。

浅虫水族館は、漁業とゼニガタアザラシの共存を目指して、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターとの共同研究を開始しました。

2013年の催し物

	Winter		3月	Spring		Summer			9月	Autumn		Winter		
	1月	2月		4月	5月	6月	7月	8月		10月	11月	12月		
社会教育活動	☆図画版画展 10/6~3/31												☆図画展 10/5~3/31	
	☆写真展 1/7~4/7													
水槽のランチ	☆トンネル水槽のランチ 2月の日曜日開催				☆トンネル水槽のランチ 4/21・28 5月の日曜日開催		☆トンネル水槽のランチ 夏祭り期間中の日曜日開催			☆トンネル水槽のランチ 10月の日曜日開催		☆トンネル水槽のランチ 12月の日曜日開催		
恒例イベント	☆新春祭り inあさむし水族館 1/1~1/6			☆桜祭り inあさむし水族館 4/20~5/6		☆夜の水族館見学会 毎週土曜日		☆水族館に泊まろう 7/6~7/7	☆夏祭り inあさむし水族館 7/13~8/25		☆水族館に泊まろう 10/5~10/6			
今が旬水槽	☆千支水槽 1/1~1/6		☆香燗湯水槽 3/20~5/6					☆「スルメイカ」展示 7/13~9/1				☆クリスマス水槽 11/16~12/25		
特別企画展			☆さかなの缶詰博覧会 4/13~6/30					☆「海経路」展示 7/13~8/11		☆浅虫水族館「思い出写真と未来予想図」展 7/13~12/29				

飼育生物

	種類			点数		
	種	増	減	数	増	減
海水魚	175	21	23	4,161	3,340	2,243
淡水魚	90	1	3	4,922	2,351	3,160
無脊椎動物	78	17	27	1,474	610	641
両生類	10	0	1	94	26	21
爬虫類	3	0	0	9	1	1
イルカ	2	0	0	14	4	0
アシカ	1	0	0	4	0	0
アザラシ	2	1	0	8	7	0
ペンギン	2	0	0	11	0	1
合計	363	40	54	10,697	6,339	6,067

2013年12月31日現在

入館者数

	一般	団体	無料	合計
1月	6,883	581	2,532	9,996
2月	3,235	1,462	1,768	6,465
3月	10,705	835	3,803	15,343
4月	14,945	830	4,803	20,578
5月	28,750	1,705	8,881	39,336
6月	20,083	541	7,328	27,952
7月	22,102	1,153	8,482	31,737
8月	53,937	3,425	14,562	71,924
9月	19,959	21	7,011	26,991
10月	15,824	958	6,684	23,466
11月	10,621	992	4,418	16,031
12月	7,336	551	2,641	10,528
合計	214,380	13,054	72,913	300,347

入館料金

区分	一般・高校生	小・中学校	幼児
個人	1,000円	500円	無料
一般団体	10人以上	900円	450円
	30人以上	800円	400円
学校団体	500円	250円	無料
年間パスポート	2,500円	1,250円	

● 開館時間/09:00~17:00(入館は開館30分前まで)

● 休館日/年中無休(年末年始も休まず営業)

※2014年4月1日から入館料金が変わります

2013年の出来事

- ・2月26日 酸ヶ湯で566cmの積雪を観測
- ・4月27日 加茂水族館からゴマフアザラシ1頭を搬入
- ・5月12日 深浦町でカマイルカ1頭を保護
- ・5月14日 深浦町でカマイルカ1頭を保護
- ・5月28日 青森市でゴマフアザラシ1頭を保護
- ・6月17日 アクアマリンふくしまからゴマフアザラシ1頭を搬入
- ・6月30日 えりも町からゼニガタアザラシ4頭を搬入
- ・8月12日 四万十市で国内観測史上最高気温41.0℃を記録
- ・9月7日 2020年夏季オリンピックの開催都市が東京に決定
- ・10月12日 全国57か所で真夏日を記録(過去最遅)

マリンスノー No.32

2014年3月発行

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

TEL 017-752-3377

FAX 017-752-3379

http://www.asamushi-aqua.com

表紙説明:ゼニガタアザラシ

襟裳岬に定住するゼニガタアザラシは、観光客にも人気があり、観光資源としての一面ももっています。野生動物と人間の共存は、陸上だけではなく海でも大きな課題です。